

『みなとわくわく探検隊～港?!ってなんだろう～』の作成

国土環境研究所 環境コンサルタント事業部 環境技術グループ 柴垣 太郎

小学生に、普段の生活では直接目にする機会の少ない港への理解を深めてもらい、港を身近な存在に感じてもらうことを意図し、小学校教諭・市教育委員会とともに新潟港のガイドブック(地域情報資料)を作成しました。

はじめに

新潟港湾空港技術調査事務所(国土交通省北陸地方整備局)では、美しく活力のある「みなと」空間の創出を図る「みなとまちづくり」の推進、「公共事業の説明責任向上」の観点から、新潟港における港湾施設等の地域の情報を整理し、総合学習等に提供していく仕組みづくりを進めています。その一貫として、新潟市の教育現場からの意見を反映した誰でも親しみやすく、わかりやすい新潟港のガイドブック「みなとわくわく探検隊～港?!ってなんだろう～」(以下、「ガイドブック」)を作成しました。

当社は、2005年度から2006年度にかけて、地域情報の収集・整理、仕組みづくりの検討を行い、ガイドブックの作成に係わってきました。

掲載内容

特徴

ガイドブックの特徴は、表1に示す3点です。

1点目は、児童の興味・関心をひくため、Q&A方式(クイズ)としたこと。2点目は、実際に港湾で働く人のコメントや働く様子を掲載したこと。3点目は、地図や写真を多用し、授業等で活用していただきやすとしたことです。

学校の学習内容との対応

ガイドブックは教育現場で活用されることを想定し、小学校で使用する教科書との対応、新潟市教育委員会や新潟市学校研究協議会のメンバーとの意見交換を行い、港湾関係者として地域住民に伝えたい内容としました(表2)。



図1 「みなとわくわく探検隊～港?!ってなんだろう～」表紙

ガイドブックの作成プロセス

ガイドブックは、作成の意図の計画「PLAN」、小学校教諭・新潟市教育委員会との意見交換会の実施「DO」、社会科の授業での活用「CHECK」、ガイドブックの完成「ACTION」、という作成プロセス(PDCAサイクル)に基づいて作成しました(図2)。

本ガイドブックの最大の特徴は、「CHECK」の段階においてガイドブックの原案を用い、小学校にて授業を実際に行っていたとき、児童らの反応、授業を行った先生、見学していた先生の両方の意見を踏まえ、ガイドブックを完成させた点です。なお、授業では、児童からの好意的な意見が多数出されました。

今後の取り組み

児童が小さい頃から地域の環境に触れ、そこに親しむことは非常に重要なことです。そのため、地域の環境情報を発信し、地域の環境を分かってもらうことが重要になってきます。

当社は、環境コンサルタントとしての専門的な視点から、ガイドブック等の資料や体験プログラム等を用い、地域の環境を人々にとって分かりやすく翻訳するノウハウを蓄積しており、環境をテーマとしたガイドブックやプログラム作りのお手伝いをします。

表1 掲載内容の特徴

No.	特 徴	
(1)	Q(問い)&A(答え)形式	児童が興味・関心を持ち、学習意欲を高めるため、13のQ&Aを用意。
(2)	港湾で働く人の紹介	大型浚渫船「白山」の船内および船長、水理実験場の職員を紹介。
(3)	地図、写真、図の多用	新潟港のマップ、写真・図を多用することで「調べやすさ」に配慮。

表2 ガイドブックの目次および学校での学習内容

学校での学習	掲載内容									
	1. 船全般	2. 港全般	3. 新潟港の紹介	4. 新潟港からの旅行	5. 新潟港の施設	6. 新潟港の環境や地形	7. 新潟港の物流	8. 新潟港での仕事	9. 新潟港の歴史	10. 新潟港周辺の漁業
総合学習	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3年 社会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4年 社会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5年 社会							○	○		
6年 社会							○			

注)学校での学習内容は、「平成18年度新潟市教育委員会採択教科書」より抽出

ガイドブック作成のためのPDCAサイクル

- P・・・作成の意図の計画「PLAN」
 D・・・小学校教諭・教育委員会との意見交換会の実施「DO」
 C・・・社会科の授業での活用「CHECK」
 A・・・ガイドブックの完成「ACTION」

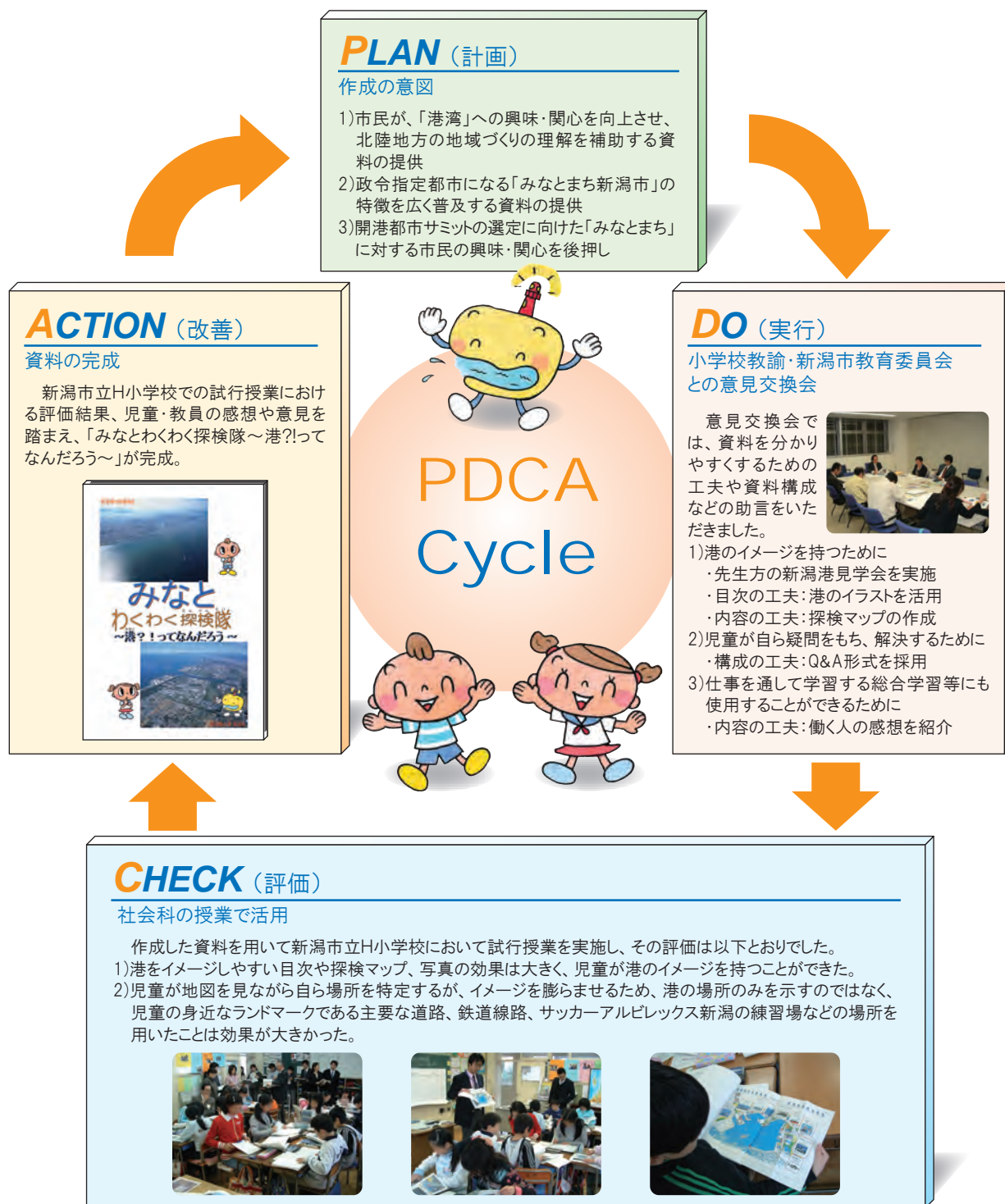


図2 ガイドブックの作成プロセス